

申請取りまとめ大学 美作大学 331006A01

プラットフォーム名 美作地域人材育成プラットフォーム

タイプ5基本方針等（美作地域人材育成プラットフォーム）

■美作地域人材育成プラットフォーム形成の着手

2012年9月12日

津山商工会議所と津山工業高等専門学校（以下津山高専）が包括連携協定を締結

2017年10月3日

津山商工会議所と美作大学並びに美作大学短期大学部（以下、本学）が包括連携協定を締結

2017年10月24日

本学並びに津山高専と津山市の三者会議を開催（@本学）。津山市エリア中心の教育連携を含む包括的な連携を進展させ、美作地域全域（10市町村）にその範囲を広げる方向性を確認。

2017年10月30日

津山商工会議所と本学並びに津山工業高等専門学校のそれぞれの包括連携協定を統合して、三者の連携とすることを確認（協定書を作成）した。また、これにより上記プラットフォームへの参加を確認。

2017年11月25日

本学、津山工業高等専門学校と、美作地域の全市町村（3市5町2村：津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町）並びに岡山県の出先機関である美作県民局との間で「美作地域創生に係る包括連携協定」を締結し、協定書第2条（連携協力事項）の第1項「美作地域の高等教育、人材の育成に関する事項」に基づき、当プラットフォームの設置へ。

2018年2月23日

岡山県高等学校長協会美作支部会議で、当プラットフォームへの参加を承認。
（2017年12月14日、美作支部林野高校長を訪ね、参加を要請）

2018年3月26日代表者会議を開催し、「美作地域人材育成プラットフォーム」を発足。

参加団体は 教育機関は、美作大学、美作大学短期大学部、津山高専
中等教育機関から、岡山県高等学校長協会美作支部
行政では、美作地域の全市町村、岡山県美作県民局、
産業界では、美作地域の6つの商工団体

2018年9月30日

すでに当プラットフォームに参加していた美作地域の5つの商工会（真庭商工会、作州津山商工会、鏡野町商工会、久米郡商工会、みまさか商工会）について、それぞれの商工会と津山高専と本学の間で包括連携協定を締結。当プラットフォームへの参画の条件整備を行った。

■中長期ビジョン策定の進捗状況並びに実施までのロードマップ（5カ年計画）

2018年度

前年度末（2018年3月26日）の代表者会議で「美作地域人材育成プラットフォーム」を発足。ロードマップに沿って、全構成団体（自治体並びに商工団体）に対して、自治体においては企画政策担当部署、商工団体では会長あるいは事務長級担当者への直接面談によるヒアリングを行った。ヒアリング項目は、①地域人材に関する現状認識並びに課題等、②人材に係る課題等を解決する方策について、③育成してほしい地域人材像について、④人材育成において地元高等教育機関（本学並びに津山高専）に求めること。

ヒアリングから、次のような人材育成像（学科設置を含む）が浮かんで来た。

- ・地域の活性化、地方創生の先頭に立つ人材の育成
⇒ 地域経営を学ぶ学科
- ・地域の生物資源を活用して、6次産業をリードできる人材の育成
⇒ 生物資源を活用した経営に関わる学科
- ・科学技術を活用し、将来的に独自の技術展開が可能な人材の育成
⇒ 実践的・創造的精神をもち、多様性並びに総合的な力をもった技術者を育てる学科

これらの結果を9月27日開催の実務者会議に報告、協議を行った。

下半期に、中長期の人材育成ビジョンへの落とし込み作業を各高等教育機関（本学、津山高専）で実施する。その中でも短期に対応が必要である案件については、幹事会で協議の上、代表者会議、実務者会議を開催し、協議の上、方向性を確認する。

また、本学と津山高専は、「暮らしの質の向上や科学技術、産業の発展や振興を担う若者の育成において、国際的な視野から社会に貢献できる自由で実践的・創造的な人材を育成する」という教育理念を共有していることから、SDGs 共同宣言を本年11月1日に予定している。今後共同の実施促進のための組織をつくり、共同FD、SDの開催、共同の講義の開発あるいは共同研究などにより高等教育機関の連携と協働を強化する。

2019年度

美作大学と津山高専の学術分野、専門性を踏まえて、地域ニーズに対応する中長期の改組計画（新学科設置を含む）を作成し、行政や産業界の関わり方、高校との連携をも含む中長期ビジョンを作成する。

また、本学と津山高専との教育、研究、社会人教育、地域貢献における共同の取り組みの点検、総括を通して、連携、協働の深化を図る。

2020年度

中長期ビジョンに基づき、本学、津山高専、地域高校が、それぞれの関係する国、県の監督行政機関や市町村、各種団体と具体化に向けた相談、協議を進める。

2021年度

中長期ビジョンの遂行状況のチェック、学部・学科改組、新学科設置に伴う教育課程の検討、教育への産官の協力体制の検討、卒業後の地域での受け入れ体制の検討を行う。

2022年度

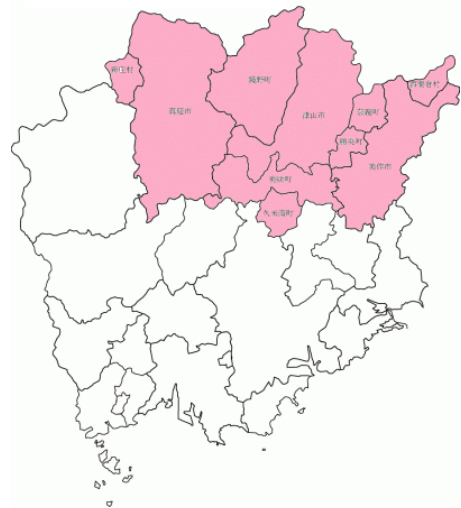
中長期ビジョンの進捗状況のチェック、問題点の洗い出し、ビジョン実施に必要とされる調整を行う。

■中長期ビジョン策定にかかる基本方針

(1) 美作地域のおかれている状況

美作地域は中山間地域の真ん中に位置する津山市と周辺地域から構成され、少子高齢化、人口急減、農林業の衰退等、困難に直面する地方の縮図となっている。また大手企業の海外移転や企業誘致が進まない中で、地域資源活用による新産業の創出や地域ブランドの開発などの独自産業の育成が急務になっている。またそれを支える知の拠点と人材育成が不可欠であり、高等教育機関の存在価値は非常に大きい。

岡山県美作地域



(2) 美作地域の高等教育機関の現状と課題

本地域には美作大学、美作大学短期大学部（以下本学）、津山工業高等専門学校（以下津山高専）の3つの高等教育機関が存在する。地域の危機を前にして、高等教育機関は結集し協力関係を強化し、自治体、産業界と連携することで、その持てる力を出しきることが求められている。

本学は、“食と子どもと福祉”の分野の専門職人材を育成し、この地域の暮らしを支える人材育成を担っており、一方、津山高専は、機械、電気、電子制御、情報の工学を専門としており、高等教育機関は専門分野の重なりはなく、専門性において補完的である。それゆえ、地域において人材育成の両輪として機能する。一方では、本学と津山高専は、暮らしの質の向上や科学技術、産業の発展や振興を担う若者の育成において国際的な視野から社会に貢献できる自由で実践的・創造的な人材を育成するという理念を共有している。

美作地域からの進学動向は、18歳人口を基準として、大学短大等への進学者の33%（3分の1）がこれらの高等教育機関に入学している。しかし、専門分野が工学系と生活科学系に限られているため大学短大等の進学希望者の多数（3分の2）は、この地域から外に学びの場を求めざるを得ないのが現状である。

また、本学は、美作地域から約120名の入学生を迎え、大多数（約80名）が地元就職している。津山高専は美作地域から約70名の入学生を迎えているが、卒業後にこの地域に就職するものは10名程度に限られており、地域の労働市場との不一致が見られる。

以上より、高等教育機関の課題として、

- ①美作地域の高等教育機関の専門分野の多様性が求められる。
- ②地元産業界や自治体の地方創生に向けた人材育成ニーズとの適合性が必要である。
- ③高等教育機関の改組、学科新設等において、地元の産官のニーズについての聞き取りや調査が十分ではない。
- ④この地域の人材育成ビジョンが、産官学で十分共有されていない。
- ⑤高等教育機関への自治体、産業界からの支援が十分ではない。

が挙げられる。

(3) 美作地域における高等教育の短期ビジョン、中長期ビジョン策定に向けた基本方針

- ① 美作地域の高等教育ビジョンづくりを軸としたプラットフォーム形成は、岡山県北部の中
国山地の盆地の中山間地域という共通性を持つ美作地域 10 市町村（津山市を含む）のプ
ラットフォームへの参画を進める。これらの地域は本学、津山高専の主な通学圏である。
岡山県の出先機関である美作県民局を加え美作地域の全行政機関と地元高等教育機関と
の間で包括連携協定を締結し、美作大学創立 50 周年式典（2017 年 11 月 25 日）において
締結の披露を行った（すでに実施）。

数値目標：包括連携協定締結自治体：美作地域の自治体・行政機関の 100%が締結

- ② 津山商工会議所、真庭商工会等、美作地域の全商工団体の本プラットフォームへの参加を
実現した（すでに達成）。

数値目標：包括連携協定締結商工団体：美作地域の商工会議所、商工会の 100%が締結

- ③ 岡山県高等学校長協会美作支部に参加を依頼し、高大連携の地域人材育成プランの策定を
視野において、プラットフォーム形成を進める。

数値目標：美作地域の私立高校を含む 100%の高校長により構成される組織のプラット
フォームへの加入を実現（すでに達成）

- ④ 全ての地元高等教育機関を軸に美作地域全市町村と岡山県美作県民局、商工会議所・商工
会、地域高校校長会に拡大したプラットフォームを発足。（2018 年 3 月）

数値目標：美作地域の 100%の行政機関、商工団体、高校校長協会がプラットフォームに
参加

- ⑤ 全市町村、岡山県民局の高等教育に関する総合計画等を確認、全てのプラットフォームを
構成する団体への訪問聞き取り作業を行い、地域に必要とされる人材に係る現状認識・課
題、人材像、人材育成において本学、津山高専に求めること、具体的な学科像などを明確
にする（2018 年 9 月 27 日のプラットフォーム実務者会議で第一次取りまとめを報告し協
議）

数値目標：美作地域の 100%の自治体及び商工団体から意見聴取

- ⑥ 意見聴取の結果をもとに、本学、津山高専において、短期及び中長期ビジョン（教育課程
の検討、改組、新学科設置等を含む）に落とし込むための検討を行う。ビジョンをまとめ
る過程で必要に応じて、行政、産業界から意見を聞く機会（プラットフォーム代表者会議、
実務者会議）を設定する。（2018 年 11 月～2019 年 9 月）

数値目標：本学と津山高専との幹事会を 2018 年度内に 10 回以上行い、短期的に対応が必
要とされる課題等に関する意見を得るためプラットフォーム代表者会議あるいは実務者
会議を 2 回以上開催する。

(4) プラットフォームによる数値目標

① 本学並びに津山高専への美作地域からの進学者の増加

本学は、美作地域から約 120 名の入学生を迎え、津山高専は美作地域から約 100 名の入学生を迎えている。プラットフォームの進捗により、本学は美作地域からの入学者を 150 名程度に増やす。津山高専と合わせて 250 名の受け入れをめざす。

これにより、美作地域の地元高等教育機関への進学割合を現状の約 33%から 40%へ増加させる。このためには新学科設置や地元高等教育機関の教育への信頼向上が必要となる。ヒアリング結果では地域経営などの分野の学科増設の希望が強いので、これについて検討を行う予定である。

② 入学した学生の地元就職の促進

本学では、美作地域出身の卒業生約 120 名の大半（約 100 名）が美作地域に就職している。

一方、津山高専では、卒業時点で就職希望する学生約 100 名（美作地域出身者は入学者の約 6 割なので 60 名）のうち、美作地域に就職するものは 10 名程度である。現状では、美作地域出身者の卒業生の $(\text{本学 } 100 + \text{高専 } 10) / (\text{本学 } 120 + \text{高専 } 60) \times 100 = 61\%$ が地元就職している。プラットフォームの進捗により、70%をめざす。

③ 美作地域の高等教育機関である本学と津山高専との地域の知の拠点化

- 1) 共同 FD、SD の開催：年 2 回
- 2) 共同の講義の開発：2 科目（SDGs 共同宣言に係る授業）
- 3) 共同研究：テーマ数 3 件以上
- 4) 公開講座等の共同企画・開催：年 2 回